



月地域づくり協議会の設立や運営に格別のご指導ご支援を賜り厚くお礼申しあげます。皆さまのお陰を持ちまして、無事九ヶ月を経過することができました。昨年三月二十三日に設立総会を終え、五月から今後五年間の活動計画を作成するため、五部会が月一回のペースで会議を開き、計画をまとめたまま開催し、皆様のご承認を得て、正式に五年間の活動計画として決定頂きました。また一方、各委員

年頭ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

跡すし上利はの 本年も皆の力を結集して地域づくりをすすめよう

高月地域づくり協議会長

村井 弘

利用について
月中学校跡地
委員会を立
ていた検討を
いておりま
す三月には、
利用計画案と

また、地元住民の最も願いでの高月中学改築工事に正式に決まりました。

この高月地域がより安全で安心して暮らせる地域になり、人びとがより温かい絆で結ばれ、幸福な暮らしが続きますことを願い、あわせて皆様方のご健康ご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶と

会も素晴らしい活動をして頂き、大きな実績を残すことができました。高月公民館指定管理者準備委員会は延八回の委員会を開催し、十一月一日に申請書、提案書を市当局へ提出、同十四日には長浜指定管理者選定委員会でプレゼンテーションを行い、二月定例市議会において承認され、本三日

市長へ要望したいと
考えていきます。広報研修委員会では、会報「高月地域
力」を毎月発行し大変好評を頂いておりま

たかつき 地域力

第12步

《発行》
高月地域づくり協議会
広報研修委員会
責任者 山仲秀雄

高月地域のようす
(平成23年12月1日現在)
人 口
男 5,088人
女 5,168人
合計 10,256人
世帯数 3,254世帯





藤井長浜市長

思だ営あ運民な平市がも席ののも村
いいをり営参い等政。らを議最高井会
まてしが 加市。開い置員後月長
すいてた本の政格公かまかとの町長
るいい当市。差平れしせし議時
とた運に政市の・たたてて会代私

藤井市長 市町の合併といふのはこれから二十年先、三十年先、五十年先を見据えたまちづくりの手段であつて、合併することが目的ではありません。我々の次の世代の人たちが生きるまちを創るために手段であることをもう一度確認しておきたいと思ひます。

私はこの合併で一番大切なことは、北

い不安や心配もあると、率直におしゃつていていますので、北部地域の皆さんのが合併して良かったなどといふ思いを持つていいだだけるようにしてたいたいと思つております。新長浜市では行財政改革と未来につながる成長戦略政策を進めめる必要があります。

四月に北部振興局を設置し、道路、河川の整備や獣害対策、あるいは冬場の除雪などを北部振興局がしっかりとコントロールしていくことにしています。昨年は一年目でやや手探り状態でしたが、今後も北部振興局の機能強化に取り組み、合併にに対する不安や皆さんお持ちの心配ごとを丁寧に解決していきたいと思います。

長浜市と六町が合併して、二年が経しましたが、この合併は人口は十二万人を超えて、面積では県下で一となる大規模合併でした。大規模合併によって、市中重心地へ人も行政集団の中進み、高齢者は寂しさを感じて、周辺町に進んでいます。よながで、はう心市と組み合併したことですが、市長はうてが疎か化されも、行政の中でも行政の言葉は変わらなかった。よながで、はう心市と組み合併したことですが、市長はうてが疎か化されも、行政の中でも行政の言葉は変わらなかった。

丁寧に合併の不安を払しょくす。

限が集約されますので、どうしても支所が従来の規模よりも縮小します。これらは、市民生活に身近なサービスは支所が担い、広域的かつ専門的なサービスは本庁が担うというようだ。それぞれの役割分担を明確にしながら、効率的に行政サービスを目的的に行行政サービスを提供することです。



新春對談

地域づくりを つどい》

村井会長 市長さん 新年明けましておめでとうございます。昨年は、高月の地域づくり協議会の設立と運営に格別のご指導ありがとうございました。がとうございましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

長浜市（の）初代市長 藤井市長 私が市長職に就かせていただいた二年と、概ね二年というこの二年ですが、感想はもう五年ぐらいやらせてもらっていただいたかなどいう印象です。非常に月日の経つ早さを感じています。市長職の一日は、早い時は朝七時に入タートして、庁舎にいるときは三十分

みに会議、打合せ、来客があり、それ以外の時間は市内の会合や現地をできる限り回り、時には県庁に大阪へ、また東京の霞が関や国会にも走るというように、日々、慌ただしくも精力的に働いています。お陰さまで皆様の協力をいただいて長浜市政の新しいまちづくり、運営が始まっています。

長浜市は一市二町、そして一市六町と、二度の合併で九つの市町が一つになり新長浜市がスタートしてきます。

考えてみれば、この地域にそれまで九

皆さま新年明けましておめでとうございま
す。今号は「地域力」新春特集として、昨年十一月十四日に開催した、長浜市長藤井勇治氏と協議会会长村井弘氏の対談の模様を掲載します。この対談は、市長から合併後二年が経過した新長浜市の今後のまちづくりの方針、特に北東部地域の振興策などもを伺うたため開催したものです。なお、紙面の都合上、一部編集して掲載しています。

村井会長



でやいて、の九市長が行つて、九人が行つて、九倍の忙しさで、やつたことを一人町長が思ふ。しかし、なにかが、色々大きな課題も背負いながらではございませんが、お陰さまです長浜市政も比較的順調にスタートさせています。ただ、いたるところが、色々大きな問題も背負いながらではございませんが、お陰さまです長浜市政も比較的順調にスタートさせています。



中学校跡地利用は地域全体の将来を見えた計画にしたい

藤井市長 待望の新しい中学校が二十五年四月に完成し、新しい環境の中で生徒さんたちが勉強をする夢のあることが実現することになりました。したがって今までの中学校校舎は役目を終えますので、市教育委員会では現在の校舎を全面撤去する予定をしています。

二万六千平米ですか、大変広大な土地で、JR高月駅にも歩いて行ける近い位置にあり、国道8号など他の幹線道路にもしつかりと結びついていい。非常に立地に恵まれた魅力的事ら私たちは思います。それからな学校跡地といふところな思ひが高月

用ワーキングチームをつくり、跡地利用の基礎調査や検討を行いうようスタートいたしました。今後の高月地域のまちづくりを推進するにあたり、非常に重要な位置づけになりますので地域の皆さんへの期待にこたえて良い跡地計画案を作つていきたいと思いますし、皆さんからも提案をしていただきけると聞いていますので、その提案を市のワーキングチームに届けて、貴重な意見として参考にさせていただこうと思います。

地域全体が活性化し策を検討してもらおうと思つていてます。 次に地域づくりについてお尋ねしたいと思います。お陰さまで高月地域づくり協議会も、去年の三月二十三日に設立して約一年を迎えます。が、長浜では十五番目の地域づくり協議会だと聞いています。が、今後、各地域づくり協議会が地域の特性を活かしたまちづくりを進める大事な組織になつてくると思ひます。財政的な支援も含めて地域づくり協議会への期待をお伺いします。



藤井市長 高月の特性は、実に沢山あります。が、一つは、古くから高時川や余呉川の豊富な水に恵まれた、非常に肥えた広大な田園を持つところです。そこで、圃場整備事業も昭和四十年代初めからスタートされ、優良

地域の優れた産業経済活動

村井会長 今市長をが後かお大のら、北事北特に合併し評価した。安価なうのう月のい対い化北ががな業の地企も北いだ部企が進月を中地地域に少しあった。心には、あつて大手企業立地も一歩近に生生活圏がる。国道8号に商社で、区域までう高すり合いで、一定広がる。企業立地めらにすはこ齢ます併びます。化がる。地域ばどあがなと化します。過疎してすねてをようる。らはし過疎してすねてをようる。いおどいい高市な絶て疎てすねてをようる。

市北部の振興に役割は大きい。その結果、国道8号線沿いに大型の商業施設が続々と出店し、商業の集積地として、経済活動の優れた地域といふ位置づけである。また、もう一つは、日本電気硝子、ヤンマーあるいは兵神装備など大変優良な企業が立地し、しかもそれが集積され、湖北で一番産業経済活動の優れた地域といふ位置づけである。十一面觀音で觀音の里として大勢の観光客が訪れ、非常に信心の篤い地域、人柄でもあるといふこと。

きた。それに関連し地域の経済が潤い雇用が進む高月ですから、若い人がこの地に土地と家を求め定住してくる、そのニーズや戸数も相当な数であります。そのように見ますと長浜市にとって一番大事な重要な地域です。最近では、⁸号線沿いに新たに大型商業店舗が進出してくるという情報もありますので、元気で躍進する高月は依然維持できるものと見てきます。

行政も進出して来る企業や大型店舗に對して、インフラ整備をはじめできることは行い、地域躍進に寄与するものには支援していきたいと

りて地企企子十 目そ町江津と人 税六人入税高が いたを
がき域業業が九高での 市市い住そが百住がが月 少ただ温
たま全がを進年月ご年栗に う民の十万民あ二町平ししいか
いし体進は出に町ざは東つ草の税年ハ円税り十の成古
こたが出じ以日は い高市い津がのの億 がま四決算
と非発立め来本 ま月ので市、あべ県円法五しした。
だ常展地大 電昭しが順高 東近大五法 民千個収町のす
と にをし あし 関連硝三 番

がとてなてがいあた振と大興がで れそ高素域がるに をうかくでとく 域たシ街たき国つ
た、何いは、なりだ興思きに 申高ばの月にのあかそ三感こ へはいる人のとヤの関係マ8号線沿
す今こかか高高と い局いいは今し月とよ地な發る う十じと病買とうにが現いッタ一商店は閉店し、町の中心
後うで、月月思大たをまの高後訳の思う域り展か 便い分まに思こは日状うタ一街になつ
高思き高にのう変とつすで月もなこいながまのが 利う圈す。に物いと三常での月になつ
月うな月何住のあいく。はの北いとま圈市す大 な施内
地のいのか民でりうっ先な役部のはす域北の切 そと設に
域でかもでとすが話てほい割のでか に部でなのこがい
がす のきし たがいどかは振すり なの 要地ろあか

藤井市長 国全体が人口が減る時代になつたのですが、旧長浜もほぼ横ばいで、他も減る状態が続いていますが、高月地域は今しばらく維持できるから横ばいに維持でないとみており、「一番元気のあるまちです。

長浜市は昨年と本年の二ヵ年かけて、長浜市国土利用計画と都市計画マスター プランを並行して策定しています。この二つの計画は、今後の長浜のまちづくりの基本方針となる重要な計画となります。

旧高月町でも平成十九年から二ヵ年かけて、住民アンケートや地域説明会、ヒヤリングなどを実行ない高月町の都市計画マスター プランを作成されますが、高



高月は一番元
気のあるまち

でいくがい役
しののさは割
よでからどにうつ
かがお發すい。
。伺展れて、
いいしば
かして高ある
がたい月

うございました。地域づくり協議会は、幸いに高月地域の会は、まさにまちづくり協議会として運営されています。この会は、おおむね月1回開催され、地域の課題や意見交換が行われています。また、地域活性化のための企画やイベントも実施されています。



ご意見をいただきありがとうございました。先ほども申し上げましたが、「湖北の新しい歴史の扉が開かれた長浜市」ということで、長い間、文字どおり「湖北は一つ」という言葉で、伊香、東浅井、長浜、広い意味では坂田も入ってくる我々の湖北であります。

来永劫の力強い長浜を築いていくことをかり受け止めて、未だに課せられてはいる、市民からの期待に応えてしっかりとまちづくりを進めたいと思います。そこで、今我々に託されていますので、市民の皆さんとの負託でございますので、市民の皆さんに期待に応えてしっかりとまちづくりを進めたいと思ふります。

月。旧高月町が一つになり協議会を設立いたきました。これも改めて高月のエネルギーというか、高月の皆さん市民力かなと評価していきます。私も継続して、一つかつていくことは大事な発想だと思います。特に合併直後ですから、いろいろな意見が出てきてそれを集約する立ち上がりの時期ですので、市長として使命感や緊張感、新しい長浜市のまちづくりというう情熱をもってしつかりと取り組み、与



すせりらこざたなすいなづ市民
せしなのいだか。きがく長も
てる一まき対本たらりの一
い対ご年、しあ談日いも描人
た談活、た。はと参ラかひ
だを躍市が応お思画ンれと
き終を市とじ忙いをに微まが
まわをおうてしましめがち
ら祈ごいいて力ち

未来永劫の大強い
長浜を築きたい



冬でも力強く咲いていたひまわり(国道花...)えられた職責を果たし、皆さんの期待に応えさせていただけます。き、まちづくりの塘振りの先頭に立ちたいと思います。しかし、引き続き皆さんとの協力がなない限りはできませんので、地域づくり協議会の皆さんのご協力をよろしくお願ひ



藤井市長 県下で人口も二番目の広域化した長浜市として誕生しましたので、是非、地域ごとに協議会をつくりまして方で地域づくり協議会構想がスタートしています。

皆さんもご承知のとおり、長い間、日本の中集権体制ではなく進んで来ました。国土の均衡ある発展を国づくりの基本に、東京の霞が関で、財務省や文部科学省や国土交通省が全国一律のまちづくりの絵を描き、全国に下ろしてきました。その結果、概ね高速道路、鉄道、国道、県道など一定の均衡ある発展が実現しましたが、「一方、「過密・過疎」いう弊害も生まれてきましたと思思います。要は大都市部に情報やお金や人が集中して栄え、一方地方は疲弊していくというのが、戦後六十六年間の中央集権体制から生じたプラスとマイナス点だと考えてます。

そこで、今後しばらくは地方主権、地域主権でまちづくり

が平成の大合併で、三千や五千や一万程度の人口、財政の集積ではまちづくりが進まないということです。全国の市町村にできるだけ合併してくださるだけという法律を進めていこうとありますと、いう発想が地域主権です。ただ地主権といつても、地域主権の第一弾が地域主権は地域ごとに行動かくはらされてきました。この法律ができたときに、全國で凡そ三千三百の市町村がありましたが、十年後には千七百の市町村になりました。滋賀県でも五十あつた市町村が、十三市六町、半分以下に統合され、地方主権の旗振りが進んできました。要は、これからは地域のことは地域で決める。地域のまちづくりは地域で責任を持って決めますと、いう発想が地域主権です。ただ地主権といつても、



地域主権は、地域の特性を活かした施策を地域ごとに行うこと

れるような地域づくりを進めていくことが必要となります。そのベースになるのが地域づくり協議会ですから、高月地域づくり協議会には期待をよせていていますのでよろしくお願ひします。

地域づくり協議会が活動されることについて、財政の支援策はたくさんございまますので是非活用してください。

藤井市長 皆さんに期待することは色々あります。しかし、地域づくりは、もちろん行政が先頭に立ちますが、行政にも限界があることも理解して下さい。

それで最近、「新しい公共」という言葉が出てまいりました。これは、まちづくり、介護、福祉など様々な分野の社会的な課題に、市民の皆さんやNPOなどが主体となり、行政と一緒にになって解決に取り組んでいくこうとすることです。

したがって、新しい公共の担い手はNPO法人とか団体だけではなく、市民一人ひとりや企業、大学などあらゆるもののが新しきい公共の担い手になります。どのくらいが必要とされますので皆さんのお力を貸していただきたいと思つています。



特に、長浜は歴史文化、琵琶湖や余呉湖など豊かな自然を有しています、そういう歴史文化や自然を活かした地域づくりを進めていきたいたい。そして、少子化や高齢化など刻々と変わる社会情勢と共に様々な課題が発生しますので、こ



平成24年4月から 地域づくり協議会が 高月公民館の管理運営を行います



生涯学習と地域づくりの 拠点になります！

暇なら公民館へ 知りたければ公民館へ 仲間が欲しければ公民館へ

そのため、施設の充実はもとより、人権意識の視点に立って、住民一人ひとりが支援機関と連携を図りながら、より多様な支援を受け、様々な学習事業を開拓し、地域住民のための公民館となるよう努めます。また、指定管理者制度の利点を活かして、いつでも、どこでも、だれでも気軽に学習や交流ができるように、公民館運営に心がけ、地域の生涯学習の拠点、人づくりの拠点として、これまでの実績を引き継ぎ、新たな工夫を重ねて適切な管理運営に努めます。管理運営者は替わりますが、公民館は変わらないお気軽にお越し下さい。

二枚貝が開き、肉を
ビラビラと動かすさ
まを表した文字で、
「振」や「震」の意
味を持ち、陽気が動
き草木が伸長する状
態だそうだ。▼震と
いうと地震を連想
し、いいイメージを
もたないが、今年こ
そ災害のない一年で
あつてほしい。▼ま
た、辰は「竜」につ
ながり、竜は想像上
の動物ではあるが、
天に昇る様から登
竜、昇竜にたとえら
れ、出世や向上を
願つている。▼地域
づくり協議会も二年
目を迎えた。五年間
の計画書もまとま
り、いよいよ活動の
本番の年となる。行
政と協働して高月地
域を高める事業が始ま
る。▼地域に閉塞感
があるともいわれ
るが、心機一転、合
併を活かした地域づ
くりを始めたい。辰
年にちなみ正しく草
木が伸長し、また昇
竜が如くだ。今年も
よろしく。

編集後記

平成二十四年の新春を迎えた。今年は十二支で五番目の辰年です。辰の原語は「蜃」だそ